

# 面会交流を 円滑にするために

名古屋家庭裁判所



めんかいこうりゅう

## 面会交流とは？

子どもと離れて暮らしているお父さんまたはお母さんが、  
定期的に子どもと会って、話をしたり、一緒に遊んだり、  
一緒に食事をするなどして交流することを  
面会交流と言います。

このしおりは、面会交流をスムーズに行い、長続きさせるために、

双方の親に<sup>はいりよ</sup>配慮してほしいことを説明しています。

なお、「子どもと一緒に暮らしているお父さんまたはお母さん」と

「子どもと離れて暮らしているお父さんまたはお母さん」とでは、

配慮していただく内容が異なりますので、

それぞれ別々に説明しています。

# 子どもと一緒に暮らしているお父さん・お母さんへ

## 1 子どもが出かける前に

(ア) いつもの外出時のように送り出してあげましょう。

子どもは、あなたの気持ちに敏感です。あなたが不安を抱いていると、黙っていても、子どもは面会交流に後ろめたさを感じることがあります。もし、あなたが面会交流に不安を感じていても、そういう様子は見せず、いつもの外出時のように送り出してあげましょう。



(イ) 日時を変更する時は、早めに相手に連絡をしましょう。

## 2 子どもが帰ってきたら

(ア) まずは温かく迎えてあげましょう。

子どもが面会交流を楽しめたようなら、一緒にそれを喜んであげましょう。

(イ) 子どもの様子が多少いつもと違っていても、あわてずに見守りましょう。年齢などにもよりますが、特に初めのうちは、子どもにとって面会交流は特別な体験です。

(ウ) 子どもに相手の様子をこまかく聞かないようにしましょう。

子どもにとっては、お父さんもお母さんも大事な親です。もし何度も相手のことを聞かれたら、子どもは双方の板挟みになり、重い気持ちを抱くかもしれません。

## 3 面会交流のあり方（ふだんから、配慮してほしいこと）

(ア) 相手を親として尊重する姿勢が大切です。相手とのもめごとや相手の悪口を子どもの前では言わないようにしてください。

子どもにとって、親や身内の悪口を聞かされるのは、つらいことです。そのようなことが続くと、子どもは「自分が責められている」と受け止めて、気をつかうようになることがあります。

(イ) 子どもが面会交流をいやがったときは、子どもの気持ちをよく聞いてみましょう。

子どもが成長するにつれて、子ども自身の生活ペースができ、相手と会う時間がとりにくくなったのかもしれませんが、子どもが話した理由を口実に一方的に面会交流をやめてしまうのではなく、親同士で冷静に話し合しましょう。



# 子どもと離れて暮らしているお父さん・お母さんへ

## 1 子どもと会う前に

(ア) 子どもが安心して会えるように、無理のない計画を立てましょう。

子どもには子ども自身の生活があります。年齢、健康状態、学校や習い事などの都合に配慮して、面会交流の日時や場所を決めましょう。

(イ) 日時を変更する時は、早めに相手に連絡をしましょう。



## 2 子どもと交流しているとき

(ア) 子どもがのびのびと過ごせるようにしましょう。

学校生活や友達の話など、子どもにとって身近で楽しいことを話しましょう。

(イ) 子どもの前で相手とのもめごとを持ち出したり、相手の様子をこまかく聞かないようにしましょう。(相手を子どもの親として尊重する姿勢が大切です。)

子どもは、親の悪口を聞かされて楽しいはずはありません。子どもは、どのように振る舞えばよいか困ってしまい、あなたに会うことが負担になります。

(ウ) 子どもとの約束は慎重に。相手と相談の上で。

子どもと約束する時は、その前に相手と相談することが大切です。子どもと一緒に暮らしている親に隠し事をしないで済みます。また、安易に「そのうちみんなで暮らそう。」などと誘うことは控えてください。子どもを混乱させ傷つけることになるかもしれません。

## 3 面会交流のあり方（面会の際に配慮してほしいこと）

(ア) あらかじめ決めている面会交流の取り決めは守りましょう。

とくに面会交流の終了時間や、子の引き渡し場所、親子以外の人との面会など、事前の取り決めを相手に相談なく変更することは避けましょう。取り決めを守ることが親同士の信頼関係を深め、結果的に子どもに負担を感じさせないことにつながるのです。

(イ) 高価なプレゼントや多額のこづかいを与えることは控えましょう。

離れて暮らしているあなたにも、子どもをしつける責任があります。プレゼントやこづかいのことは、相手とよく相談して決めましょう。



## さいごに・・・

面会交流では、「子どもにとって何が<sup>しあわ</sup>幸せか」を

考えることが最も大切です。

子どもの幸せを長い目で見て、

子どもが成長するまで

親子の交流を続けていけるよう、

お互いに努力しましょう。



面会交流を取り決めるに際しては、柔軟な姿勢でのぞみましょう。

面会交流を長続きさせるためには、一定の取り決めが必要ですが、

あまりこまかな事柄にこだわると、逆効果になることもあります。

約束したとおりにならない場合でも、子どものためになるかどうかを

考えながら、なるべくおだやかに対応してください。